

地震史料シンポジウムⅡ

災害史料研究が拓く 歴史学の新たな方法

日時 2022年12月23日（金）

午後1時～5時30分

オンライン開催（Zoom）

主催 東京大学地震火山史料連携研究機構

共催 東京大学史料編纂所 東京大学地震研究所

地震・火山噴火予知研究協議会史料・考古部会

参加のお申し込みは、下記QRコード
またはURLより、専用フォームにご
登録ください。（※切 12月22日）

<https://forms.gle/UU5aWYcg2roAswnJ8>

問い合わせ先

ykano@eri.u-tokyo.ac.jp
（事務局・加納）



趣旨説明

地震史料のデータベース化の現在

安政東海地震の発震時刻—外国語史料の活用—

19世紀西日本の広域有感地震—近世日記の活用—

慶長奥州津波の実相—地誌の史料学と活用—

板碑に残る享徳地震の記録

年代記の史料学的研究と災害研究

津波堆積物から見る南海トラフ地震

考古資料による歴史地震・噴火研究

榎原雅治（史料編纂所）

加納靖之（地震研究所）

杉森玲子（史料編纂所）

水野嶺（地震火山史料連携研究機構）

蝦名裕一（東北大学）

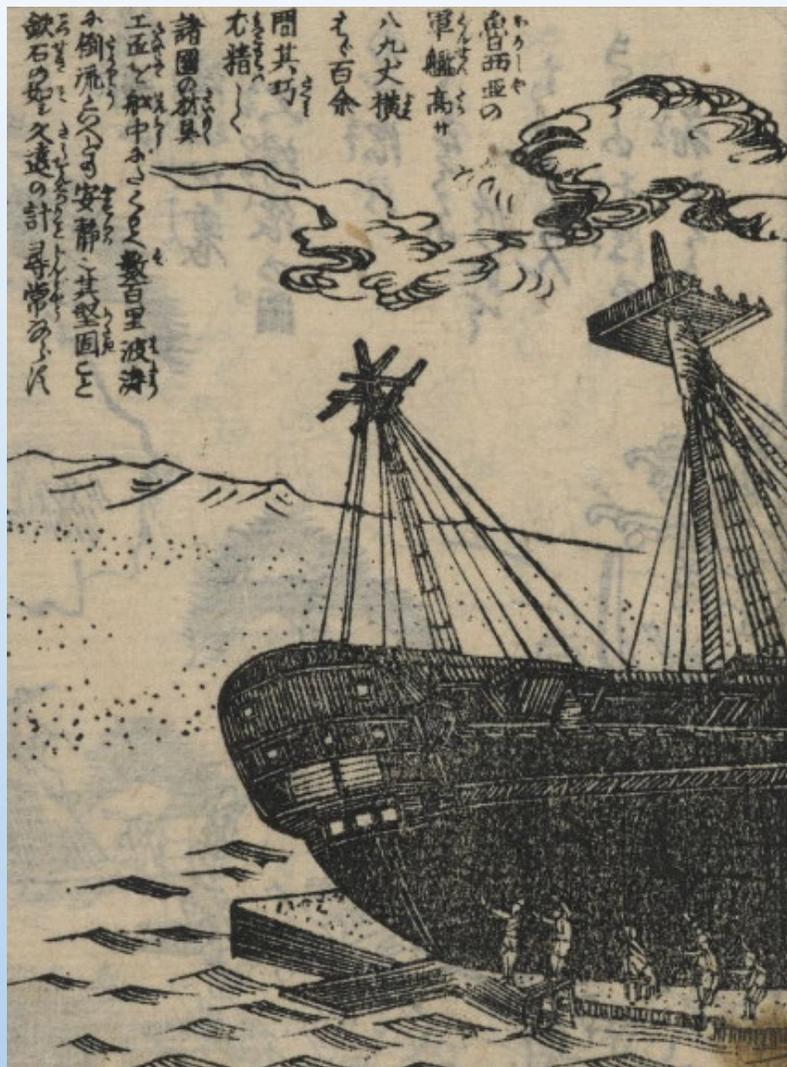
佐々木淳（石巻専修大学）

片桐昭彦（新潟大学）

藤原治（産業技術総合研究所）

村田泰輔（奈良文化財研究所）

近年の地震・火山史料研究の中で、地誌や年代記など、これまで評価の定まっていなかった史料や、外国語史料・金石文史料なども災害史料として活用しようという動向が生まれています。災害研究が歴史学の新たな方法を提起しているといえる状況をうけ、意見交換したいと思います。



ロシア船ディアナ号の遭難
『諸国海辺地震津波書』（東京大学地震研究所所蔵）